

# しゅぶがは

No.37  
2015  
SPRING

## 特集 あなたはどう思いますか？

～福島市男女共同参画に関する意識調査結果から～

## 花が育つ喜びとともに 地域振興を発信していきたい

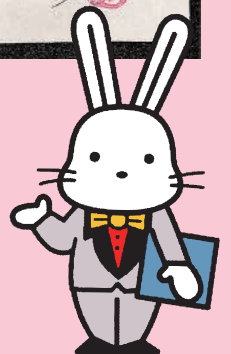
～花見山公園 3代目園主 阿部さんご夫婦～



### 【表紙紹介】福島稲荷神社

福島域下の総鎮守とされ、中心市街地に立地する福島稲荷神社は、1000年の歴史を誇り、古くから「おいなりさん」の愛称で、親しまれています。

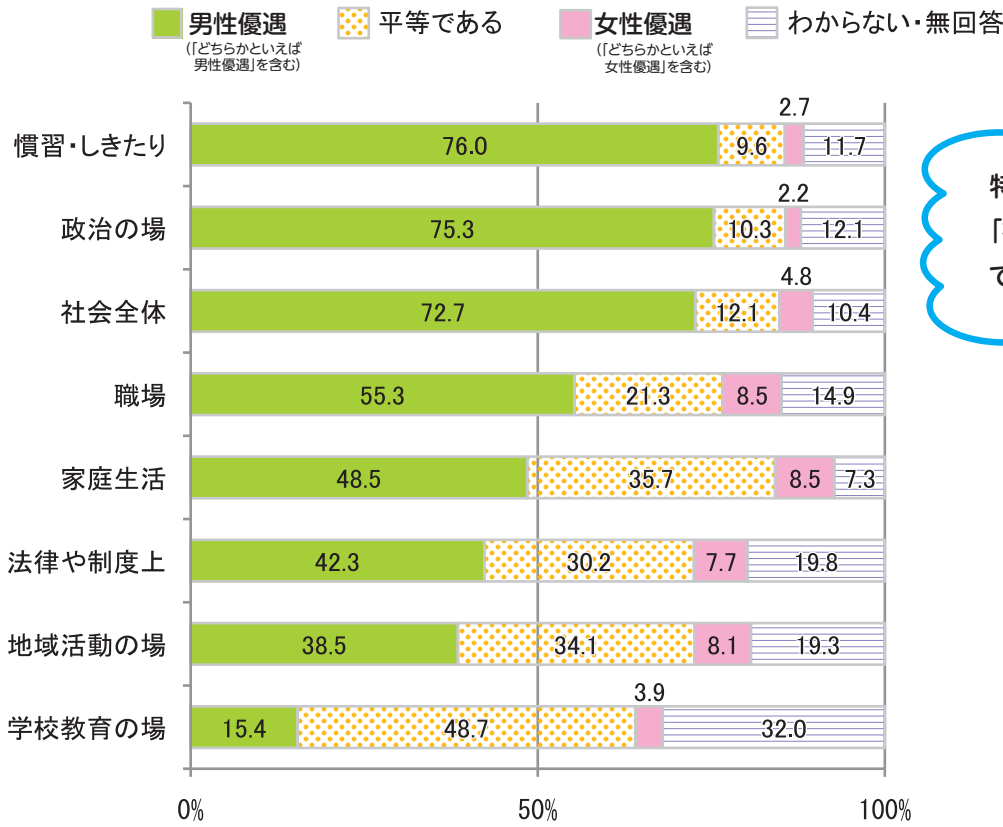
10月の例大祭では市内各地の山車が集う連山車(れんだし)が、駅前通りを大いに盛り上げます。また、年末の年の市から初詣シーズンにかけては、良い年を願う参拝客で大変賑わいます。



# あなたはどう思いますか？

～福島市男女共同参画に関する意識調査結果から～

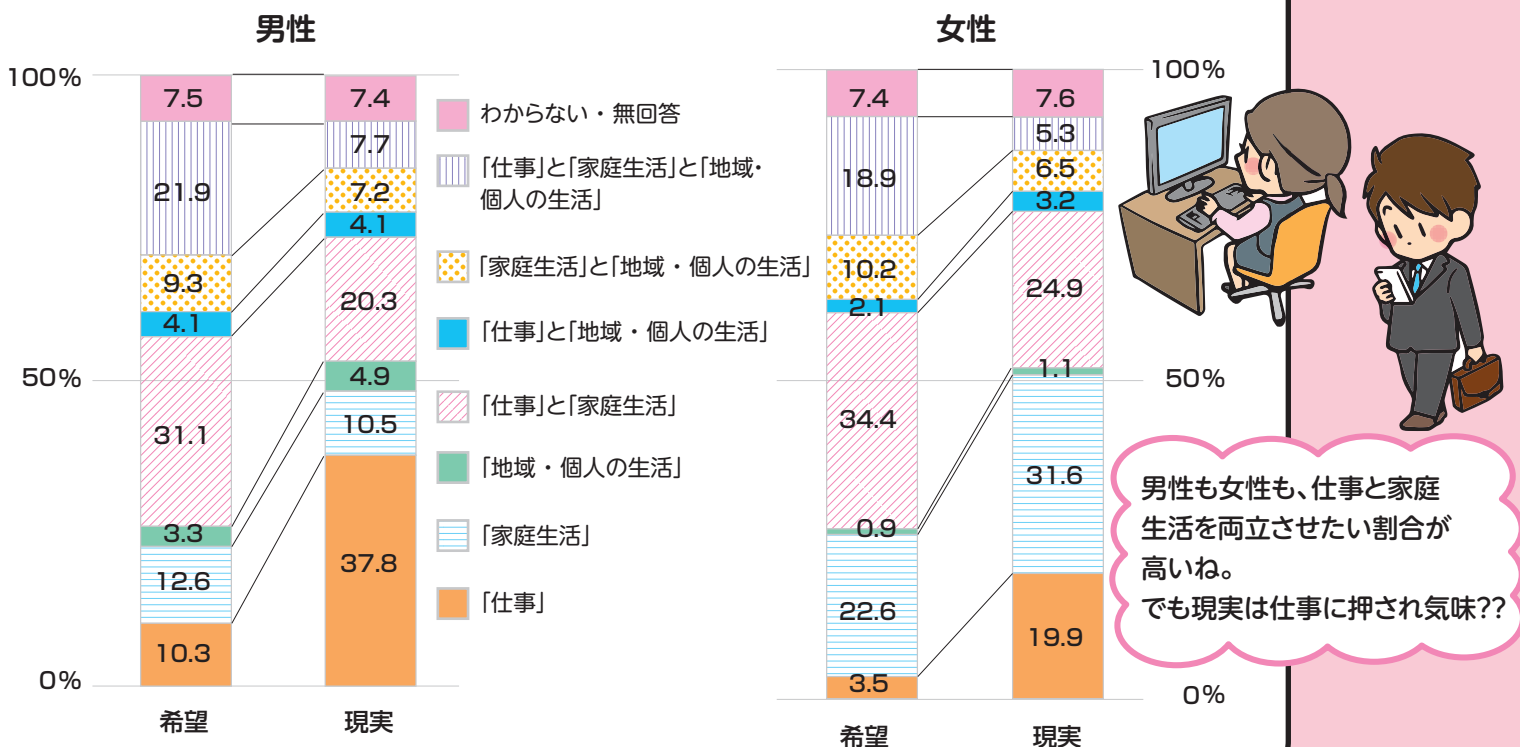
## 日頃、様々な場面での男女平等意識 男性優遇？ 平等？ 女性優遇？



特に、「慣習・しきたり」「政治の場」「社会全体」では、男性優遇と感じている人の割合が高いね。



## あなたの生き方の優先順位、希望と現実とは…



男性も女性も、仕事と家庭生活を両立させたい割合が高いね。でも現実には仕事に押し入れ気味??



『男女共同参画に関する意識調査』は、平成23年3月に策定した「男女共同参画ふくしまプラン」の推進及び今後実施する施策を効果的に進めるための参考資料とするために行いました。

ここでは、一部を抜粋して紹介します。

なお、調査結果の全体は市ホームページでの公表を予定しています。

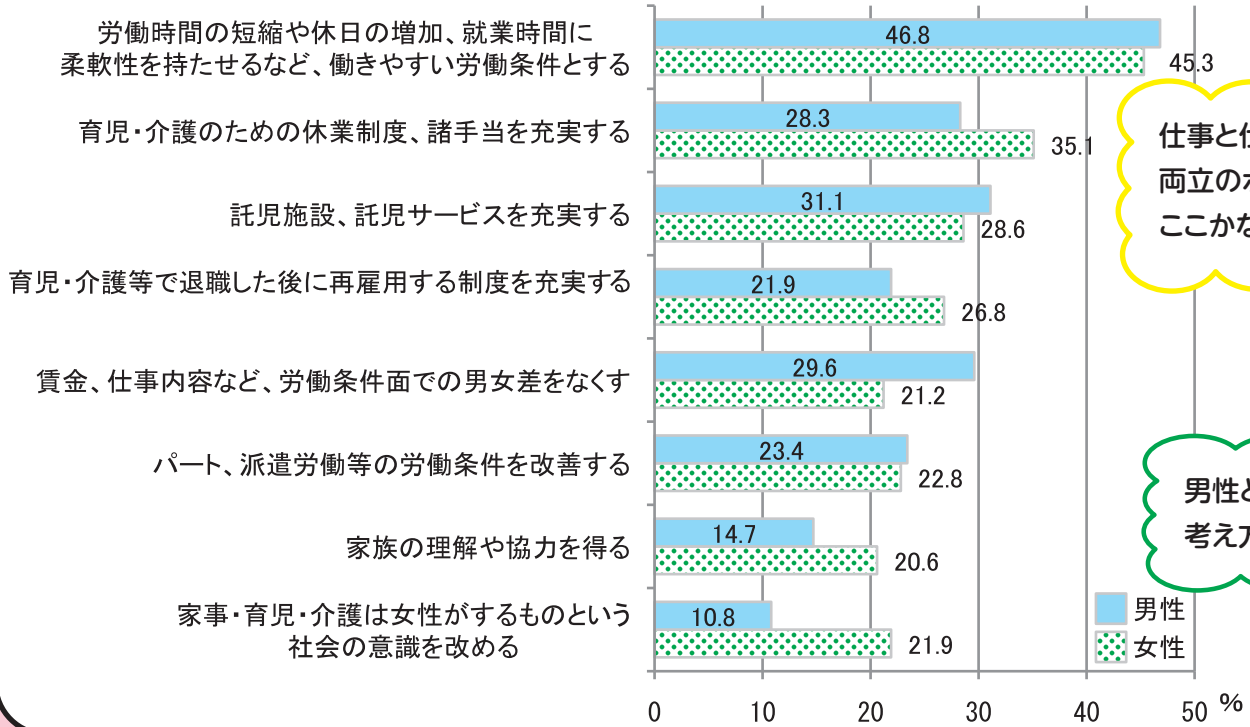
調査時期：平成26年7月

対象：無作為抽出した満20歳以上の福島市民2,600人(男女各1,300)

回収率：37.9%(986人)

## 女性が仕事を続けるために必要なことは？

※回答割合の高かった上位8項目



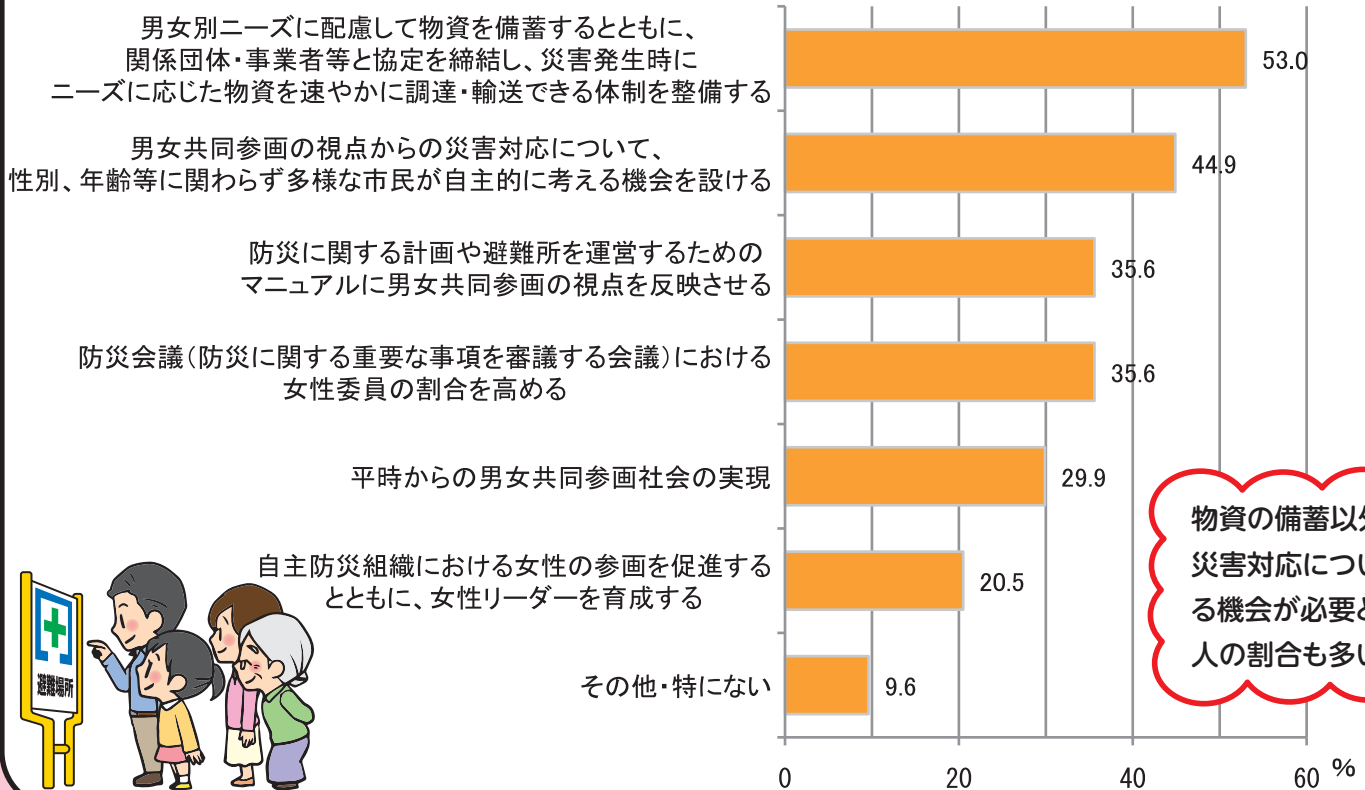
仕事と仕事以外との両立のポイントはここかな？



男性と女性とでは、考え方に差もあるね。

## 防災について、男女共同参画の考え方が必要な分野は？

※8項目より3つまで選択



物資の備蓄以外にも災害対応について考える機会が必要と考える人の割合も多いね。



皆さんは、この調査結果をご覧になり、どのように感じましたか？

関心を持ってもらい、回収率がもう少し高いと良かったと思います。

男性は仕事、女性は家庭といった固定的な役割分担にとらわれることなく、お互いを尊重し、支えあう社会の実現は、将来を担う子ども達の可能性を広げることにもなります。

日常のさまざまな場面で、自分とは異なる環境や立場の人について考えてみませんか？

# 花が育つ喜びとともに ～地域振興を発信していきたい～

福島市渡利の花木農家、初代 阿部伊勢次郎さんが自宅前の山に花を植え始め、二代目一郎さん、そして三代目一夫さんへと代々受け継がれてきた花見山は、春になると、山全体が色とりどりの花々でいっぱいになります。県内外から訪れる観光客のみなさんに、咲き誇る花々を楽しんでいただいています。  
三代目園主の阿部一夫さん、孝子さんご夫婦に、花木栽培や花見山への思いを伺いました。

花見山を一般公開されてから、印象に残っている出会いやエピソードはありますか

二代目園主である父と、写真家の秋山庄太郎先生との出会いですね。秋山先生は、年に数回、季節や時間帯、角度などを変えて花の写真を撮られました。

父は、秋山先生を、有名な写真家であるとは知らずに、花見山を案内し、花の話や世間話をしていたようです。



地元の方々楽しんでいただいている山から、全国へ広まるきっかけとなったのは、秋山先生と父との出会いがあったからだと思います。

山の維持管理上のご苦労は、どういったものがありますか

北側斜面の花木は積雪での枝折れが起こりますし、平らでない場所での作業は正直なところ、骨が折れます。また、土壌は、酸性が強く、やせているため栽培条件は良いとは言えません。



祖父、父、私の代と、家族で少しずつ花を植え続け、来園者の方々に喜んでもらいたいという同じ目標で守り育ててきました。

震災では、灯籠が倒れたり、山頂の道路がひび割れたりしました。一般公開を取りやめにした一年の休園期間は、枝切りをする等、花木の更新ができた、プラスに考えています。

風評被害の影響で、出荷量が元には戻っていませんが、新しい苗の導入も含め、今まで一本一本植え続けてきたように、あきらめないで、こつこつと植え続けたいと思っています。

花木生産業と来園者の方々への対応を無我夢中でやってきました。

対応しきれない部分を福島市や花見山観光振興協議会の方々にお願ひし、今日に至っています。



出荷を待つ花木

花見山への思いや、抱負をお伺いします

これからも原点である花木生産を大切にし、来園者の方々に楽しんでもらいたいと思っています。

花弁生産地として、皆さんに助けていただきながら、花見山地域全体の花卉



生産振興をしていきたいと考えています。

男女共同参画について、お二人の考えをお伺いします

祖父も父母も、夫は花木栽培、妻は育てた花をリヤカーに積み、行商で売り歩き、生活を支えてきました。

また、母が記録してきた作業日誌を、翌年になると父が見ながら、時期に応じた農作業等をおこなってきました。

若い世代は、インターネットの活用等(花見山ブログ)、得意分野がありますから、やりやすいように引き継いでいきたいとも思っています。

今は、市場への出荷準備を家族で協力しておこなっています。良い花を育て、皆さんに喜んでもらうことが共通の目標です。

お互いの意見を聞きながら対等に相談し合い、補い合っていくことが大切だと思っています。

《取材を終えて》

良い花を育てたいという同じ目標で、夫婦・家族が協力し、大切に引き継ぎ守ってこられた様子はとても素敵でした。

自分達だけで楽しむのではなく、花見山を訪れてくれた皆さんが楽しんでくれることに喜びを感じていることが、お二人から、とても伝わってきました。

これからも花見山を楽しむことが出来ると思うだけで、とても嬉しくなります。



編集会議に初めて参加しました。

熱意を持って効率よく整然と物事が決まり、爽快に楽しく作業が出来ました。

今回は花見山公園三代目園主阿部さんご夫婦取材しました。

福島市の名所でもある花見山も開園の期間が終わると、花木の手入れ、維持管理などにご苦労をされていることが分かりました。

また、東日本大震災では、地震による被害、原発事故による風評被害で、花木の出荷に影響がでて、大変ご苦労をされたそうです。今は少しずつ復興しているとのこと。

夫婦・家族が協力して一緒に働ける仕事を分担してやり、同じ目標に向かって頑張っておられ、後継者もいらつしやるとは素晴らしいと思いました。

## 編集

しのびあ編集委員会

笠井恵子 加藤幸枝  
加藤憲彦 佐藤裕子

表紙・切絵作家さとうてるえ

※「しのびあ」は市政だより折込のほか、各学習センターなど市の窓口で配置しています。

また、市のホームページからもご覧いただけます。